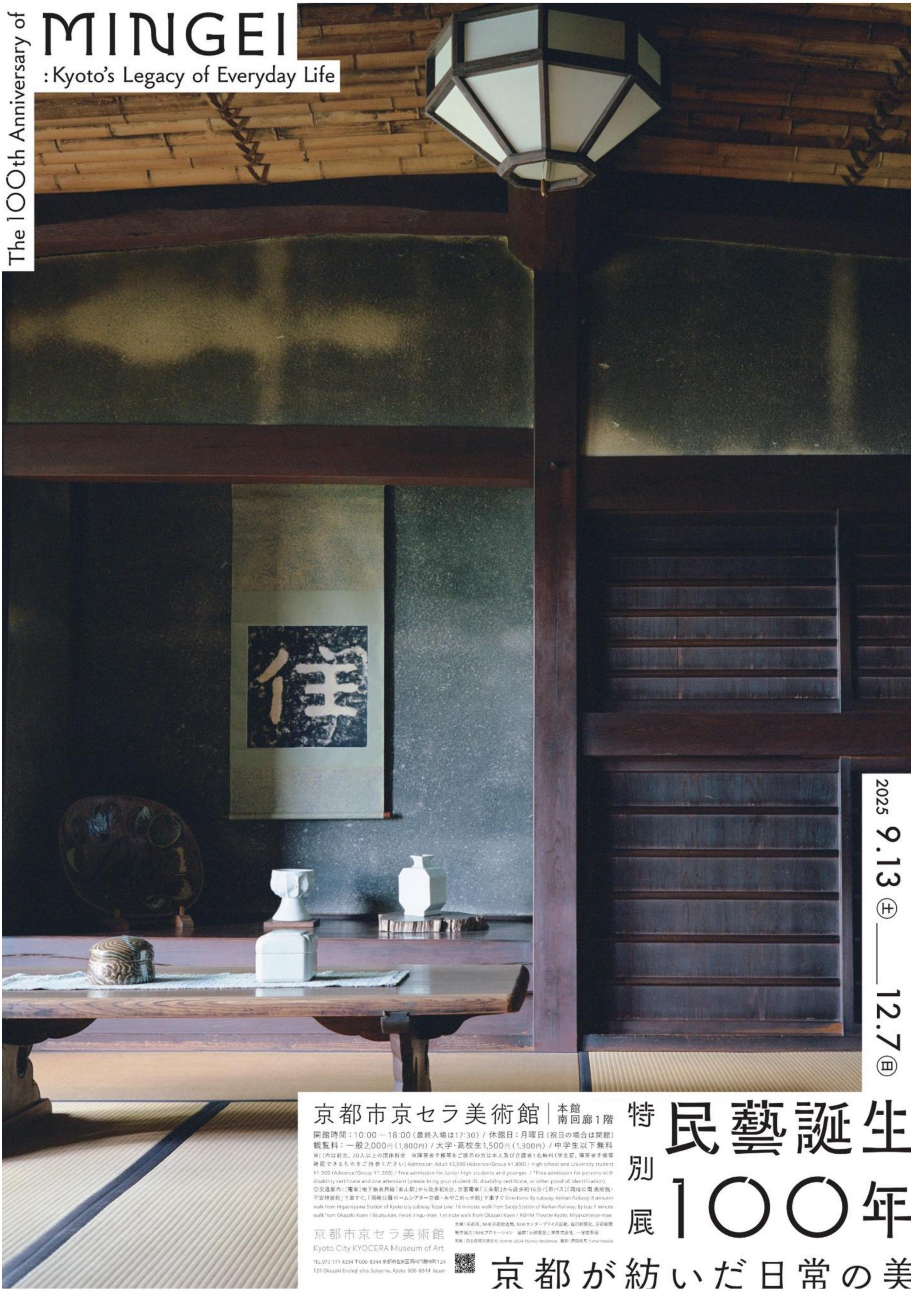
報道関係各位

2025年6月18日
「民藝誕生100年ー京都が紡いだ日常の美」広報事務局



《 報道関係者お問い合わせ先 》
「民藝誕生100年ー京都が紡いだ日常の美」広報事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂
TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）
テレフォンセンター：050-1807-2919　FAX：050-1722-9032　E-MAIL：mingei100@tm-office.co.jp

「民藝」という言葉が誕生して100年

「民藝」と「京都」の関わりに焦点を当てた特別展

「民藝誕生100年―京都が紡いだ日常の美」開催

開催趣旨

思想家の柳宗悦（やなぎむねよし/1889～1961）、陶工の河井寛次郎（かわいかんじろう/1890～1966）、濱田庄司（はまだしょうじ/1894～1978）が京都に集うことで始まった「民藝」運動。木喰仏（もくじきぶつ）の調査旅行をするなかで議論を深め、1925年「民衆的なる工芸＝民藝」という言葉が生まれました。
このたび、「民藝」という言葉が誕生して100年を迎えるにあたり、京都市京セラ美術館にて特別展「民藝誕生100年ー京都が紡いだ日常の美」を開催します。

本展のみどころ

「民藝」という言葉が誕生するきっかけとなった木喰仏をはじめ、上加茂民藝協団で活動した黒田辰秋（くろだたつあき/1904～1982）、青田五良（あおたごろう/1898～1935）の作品や、「民藝館」「三國荘」のために制作された河井寛次郎、濱田庄司、バーナード・リーチらの工芸作品、柳宗悦らによる日本全国の蒐集品や、芹沢銈介、棟方志功などの民藝関連作家の優品を展示します。また英文学者の寿岳文章、京菓子の鍵善良房、牛肉水炊きの祇園十二段家、民藝の建築を推し進めた上田恒次など京都における民藝運動の推進者や支援者をめぐる作品や資料などとあわせ、京都と民藝との関わりを総合的に紹介します。



木喰上人《地蔵菩薩像》1801年　日本民藝館蔵

京都と民藝の深いつながり

1923年関東大震災で被災し、翌年に京都へ転居、約10年にわたって居住した柳宗悦。「民藝」という言葉はこの京都で柳らの交遊によって生まれ、彼らは京都の朝市などで雑器の蒐集を本格的に開始します。「民藝」の歩みは、明治末から大正、昭和へと社会が近代化する中で、人々の衣食住の概念を変革させていくものであり、その活動は京都から日本そして世界へと広がっていきます。

展覧会構成

序章
「民藝」という言葉の誕生 ～木喰仏の発見



関東大震災の翌年、柳宗悦は木喰仏１体を得て京都に移りました。木喰仏への興味を契機に柳と濱田庄司、河井寛次郎は交友を深め、1925（大正14）年、彼らの木喰仏調査の旅中、「民藝」の語が生まれます。

木喰上人《地蔵菩薩像》1801年　日本民藝館蔵

第１章
上加茂民藝協団 ～新作民藝の制作集団

1927（昭和２）年に京都・上賀茂の地に青田五良、黒田辰秋等による制作集団・上加茂民藝協団が設立されます。民藝運動の目的の一つは、現代の生活用品を新たに産み出すことでした。



黒田辰秋《拭漆欅真鍮金具三段棚》
1927年　河井寛次郎記念館蔵

第２章
三國荘 ～最初の「民藝館」

1928（昭和3）年の御大礼記念国産振興東京博覧会に出品した「民藝館」を契機に、柳宗悦は静岡・浜松に日本民藝美術館を設立。また、大阪・三国に移築した「民藝館」は、「三國荘」として民藝関係者のサロンとなりました。



《馬ノ目皿》19世紀　アサヒグループ大山崎山荘美術館蔵

三國荘（民藝館）
1928（昭和3 ）年に東京上野公園で開催された御大礼記念国際振興東京博覧会に柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司らによって出品された民藝の理念を示す建物であった。民藝館を博覧会閉会後に山本邸があった大阪・三国の地に移し、さらに柳がその地に因み三國荘と命名したころからその名が民藝の世界に定着したものである。

第３章
式場隆三郎（1898―1965）と自邸

精神科医としての医業の傍ら、木喰仏の調査などの運動の当初から関わった式場隆三郎（しきばりゅうざぶろう）。柳や濱田などが設計に関わった民藝の代表的建築とされる自邸を紹介します。



式場邸 一階応接間　撮影：川島智生

第４章
日本全国の蒐集品

柳宗悦らは京都の朝市で、人々が日常的に使用する道具類に美しさを見出し、蒐集を始めます。彼らの蒐集の旅は北海道から沖縄まで日本全土におよびました。



《水色治芒雁紋様紅型衣裳》19世紀　日本民藝館蔵



《霰釜》18世紀　日本民藝館蔵

第５章
民藝と「個人作家」

民藝運動は、河井寛次郎、濱田庄司、バーナード・リーチ、富本憲吉、芹沢銈介、棟方志功ら、優れた個人作家の活躍により推進されました。民藝に個人作家が果たした意義を考えます。



富本憲吉《色絵「福貴」角筥》1936年　日本民藝館蔵



河井寛次郎《白地草花絵扁壺》
1939年　京都国立近代美術館蔵



河井寛次郎《象嵌鉢》日本民藝館蔵

第６章
民藝と京都

柳宗悦は京都に足掛け9年住みました。その間に本格的な雑器の蒐集が開始され、京都の地、また人々との関わりから「民藝」の思想が紡ぎだされ、運動が展開していきます。



黒田辰秋《螺鈿くずきり用器／岡持ち》1932年
鍵善良房蔵　撮影：伊藤信



松乃鰻寮（旧松乃茶寮） 一階応接室　写真提供：松乃鰻寮

関連イベント

◆講演会「民藝と京都」
日時：10月26日（日）14:00～15:30（受付・開場13:30）
会場：京都市京セラ美術館 本館地下1階 講演室
講師：後藤結美子（京都市京セラ美術館 学芸員）

※会期中には、「民藝と建築」や「壽岳文章と民藝」をテーマにしたシンポジウムのほか、ワークショップやギャラリートークを開催予定です。
最新情報は美術館ウェブサイトにてご確認ください。

グッズ情報

展覧会特設ショップでは、公式図録やオリジナルグッズ、各地の民藝品を取りそろえています。人気染色家・石北有美さんとのコラボグッズも登場！トートバッグやのれんなど、本展のために制作したオリジナルアイテムを販売します。

◎グッズ付きチケット〈先着100枚限定！〉
石北有美さんによる本チケット限定デザインの手ぬぐいと、本展観覧券1枚がセットになったお得なチケットです。
価　　格：4,400円（税込）
販売期間：2025年7月1日（火）10:00～9月12日（金）23:59 ※なくなり次第終了
サ イ ズ ：約36×90cm　素材：綿100%
引き換え場所：ご来場当日、展覧会特設ショップにてお引き換えください。
※取扱い・詳細は美術館ウェブサイトにてご確認ください。



※画像はイメージです

開催概要

展覧会名：特別展「民藝誕生100年―京都が紡いだ日常の美」
会　　期：2025年9月13日(土)～12月7日(日)
入場料金：

	一般	大学・高校生	ペアチケット
当日券	2,000円	1,500円	
前売・団体券	1,800円	1,300円	3,400円（一般のみ）

※前売販売期間：2025年7月1日（火）10:00～9月12日（金）23:59
※中学生以下無料
※団体料金は20名以上
※障がい者手帳等ご提示の方はご本人及び介護者1名無料
（障がい者手帳等確認できるものをご持参ください）
※学生料金でご入場の方は学生証をご提示ください

販売場所：美術館公式オンラインチケット、e-tixほか各種プレイガイド　ほか
休 館 日 ：月曜日（祝日の場合は開館）
開場時間：10:00～18:00（最終入場は17:30まで）
会　　場：京都市京セラ美術館　本館 南回廊1階
主　　催：京都市、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿、毎日新聞社、京都新聞
制作協力：NHKプロモーション
協　　賛：京都薬品工業株式会社、一保堂茶舗
美術館公式ウェブサイト： https://kyotocity-kyocera.museum/

《 報道関係者お問い合わせ先 》
「民藝誕生100年―京都が紡いだ日常の美」広報事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂
TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）
テレフォンセンター：050-1807-2919　FAX：050-1722-9032　E-MAIL：mingei100@tm-office.co.jp